

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	令和2年7月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0114210818-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年6月29日(令和元年度分)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるようなレクリエーションを取り入れ、入居者様とスタッフが共に外食や買い物、工作やゲームを楽しんでいます。また、個人の得手に配慮し、編み物や塗り絵、折り紙などを入居者様それぞれが楽しみ、展示会に出品するなど完成を共に喜ぶ機会があります。トイレで排泄できることを第一に考え、全身状態から紙パンツや尿取パット等の使用に変更した入居者様へもトイレの声掛けや誘導を行い、できるだけ汚染する回数が少なくできる様に考慮しています。とても活動的なユニットで、毎日の家事活動も皆さん積極的にこなされています。スタッフも入居者様が喜ぶ顔が見たくて、日々全力で楽しいことを探しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人 樹恵会が運営するグループホームいこいの樹は、中標津町の閑静な住宅街に位置する平屋建て2ユニットの事業所となっています。開設時からの理念「人としての尊厳を大切にします。」「心身の安定を図り、家庭的で心温まるケアに努めます。」「常に清潔で安全な環境を提供します。」「もっと元気にいきいきと・・・。」を目に付く所に掲示し、毎月の職員会議時に唱和して、介護提供の指針として周知しながら利用者本位の介護の実践に努めています。事業所では職員を対象に年1回業務チェックシート、年2回不適切ケアチェックシートを使用して日頃の業務や心の有り様の問題点を可視化し、振り返りや研修計画への参考として介護提供の向上と介護職を深く理解する事に繋げています。又、年1回家族アンケートを実施し、意向の把握に努め、何でも言って貰える良好な関係を築いています。管理者、職員は何か問題が起きた時には前向きにチームケアで解決しようとの意欲を持って臨んでおり、今回の新型コロナウイルスの流行で家族との面会が難しくなった時にも、どうすれば良い方法があるかを考え、平屋造りを活かし窓越しの面会を実現しています。事業所ではこれまでは2ヵ月毎に発行していた事業所便りを毎月発行し、個別に利用者の様子を記した担当者のコメントを載せて家族に安心感を持って頂ける様に取り組んでいます。事業所玄関前には寄せ植えや鉢植えの花々が美しく飾られており、明るく楽しい雰囲気と成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎月のスタッフ会議で復唱するなど共有に努めています。難しいことはたくさんありますが、これからも、スタッフそれぞれのケアの基本として実践に向けた努力をしていきたいと思っています。	開設時からの理念を玄関、廊下等目に付く所に掲示し更に毎月の職員会議時に唱和して周知に努めています。何か起きた時には介護提供の指針として理念を振り返り実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、活動に参加できるようにしています。近隣の保育園などとも交流があり、お散歩の途中に立ち寄りしてくれるなどしています。今後は、更にこちらからも交流の機会を作らせていただきたいと思います。	町内会に加入し、環境整備等の行事に参加したり、運営推進会議を通し事業所の行事に参加して頂く等相互交流に取り組んでいます。近隣の保育園児が訪問したり、入学時には手作りのお守りをプレゼントし、交流を継続しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民後見人養成講座等、研修を受け入れ認知症の方との関わり方等についてお話をさせていただくなどの機会が増えています。これからも、地域の皆様が気軽に相談にいらっしやれるような、開かれた環境づくりができればと思っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や取り組みについて報告し、ご家族様や近隣の皆様から様々なご意見を頂いています。町の担当者からも助言をいただき、サービス向上に努めています。	利用者家族、町内会役員、行政職員が参加して定期的に開催し、状況報告や質疑応答等話し合わせ、運営に活用しています。参加案内及び議事録は全家族に送付しています。	地域の民生委員や町内会長、利用者家族の参加を呼び掛けていますが、参加が少ない状況です。参加しやすい工夫をを検討し、多くの方の参加を得た運営推進会議の開催を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、求人など事業所の問題点についての報告をしてアドバイスをいただくなどしています。その他にも必要に応じて連絡を取り相談させていただいています。	町主催の研修に参加したり、資格取得に町の助成を得ています。行政職員が運営推進会議に参加しており、日常から相談や情報交換等、連携に努め運営に活用しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止委員会を開き、話し合いをしています。また、勉強会や研修に参加するなどして、理解を深めるよう努めています。緊急時以外は拘束せず利用者様に寄り添い対応するよう努めていますが、防犯の観点から18時から翌朝9時までは玄関の施錠をさせていただいています。	3か月に一度身体拘束廃止委員会を開催し事業所内の勉強会等で理解を深めています。年に2回「不適切なケアチェックシート」に職員一人ひとりが取り組み、日頃のケアの確認や疑問点の把握に取り組み、身体拘束や不適切ケアをしない介護に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修の参加により学ぶ機会を設けています。また、ユニットごとに不適切ケアのチェックを行い振り返りをしています。毎日のケアの中で注意をはらい、入浴時等には入居者様に怪我やあざがないか等も確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するなどして制度の理解に努めています。今後も必要時の制度活用に向けて理解を深めていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けています。また、できるだけご希望等をお聞きし、こちらで対応できる事、難しい事などしっかりと話し合い、ご理解いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にはできるだけご家族のご意見ご要望をお聞きするようにしています。また、入居者様のご要望も、普段の会話の中から汲みとる事ができるよう努めています。毎年、ご家族様にアンケートを実施して、いただいたご意見を運営に反映させるよう努めています。	家族の訪問時には状況を報告し、何でも言って貰える関係を築いています。これまで2カ月毎に発行していた事業所便りを新型コロナウイルスで面会が叶わなくなった家族の不安に配慮し、毎月、個別に担当職員のコメントを添えて発行しています。年に一度は家族アンケートを実施して意向の把握に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の中で職員個々に声掛けし、意見や提案を聞くようにしています。話しやすい環境づくりに努め、出た意見は会議等にて検討し運営に反映させるようにしています。	管理者は月に一度の会議時や日常業務の中で職員の意向の把握に努めると共に、会議前にモニタリング用の用紙を配布し、職員それぞれがケアに関する意見や提案を表明出来る様に工夫しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員に声をかけ勤務状況や運営状況について確認するとともに、介護負担の軽減の為、介護用品の用意や環境整備などに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月勉強会を開いており、多種多様な内容の研修を受けることができます。また、各種研修会の案内や研修計画による個々の経験に合わせた研修機会の確保により、職員のスキルアップが図れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会等での情報交換・交流を図っています。また、地域のグループホーム数件でユニットを作り、合同で研修会を企画するなどの活動も行っています。今後も継続していきたいと思っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やケアマネージャー等から情報をいただくとともに、特に入居後数日は利用者様と接する機会を多く持ち、生活に関する意向を把握し、スタッフ間で共有する事で、できるだけ早く安心して過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した段階から、見学や契約の際または電話等にて困りごとやご要望などゆっくりと時間を取ってお聞きし、不安解消に努めるようにしています。また、気になることがあれば時間を気にせずご連絡いただけるよう声掛けもさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から頂いた情報をもとに、利用者様やご家族から伺ったお話の中で、必要な支援を検討するようにしています。また、必要時にはケアマネージャーや法人の相談員とも連携を取り、他のサービス利用も含めた対応ができるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの特性や興味を把握し、家事活動や畑作業など、できる事・関心のある事への参加の声掛けをし、活動の見守りや必要な支援ができるよう努めています。活動の後にはいつも「ありがとうございます」と感謝の気持ちをお伝えしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、ご家族様に普段の生活状況などを伝えるとともに、ケアプランに沿って支援のお願いをすることもあります。また、自室でゆっくりお話しをしていただくことで、お互いの思いが共有できるよう環境に配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人、友人が訪ねてこられるようにしています。また、行きつけの美容院など、馴染みの場所にも出かけることができるよう努めています。	知人や友人の訪問を歓迎し支援に取り組んでいます。制作した作品を町の展示会に出品し皆で見学に出掛ける等、利用者のこれまでの関係や社会的な繋がりを大切に支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	注意深く見守り、関係性により食卓等の席順を検討したり、職員が間に入って会話の橋渡しをするなど関わりのお手伝いをしています。家事活動など自主的な活動がトラブルなく行えるよう、見守り声掛けをしています。また、共同作業やレクリエーション等で交流機会を増やせるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談をお受けしたり、必要に応じたお手伝いができるよう努めています。また、入院や他施設入所などの際には、日常生活を含めた細かな情報提供をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いが上手く表せない方もいらっしゃるのので、普段の行動や表情の変化に注意し、できるだけ利用者様の思いを汲みとり支援できるようにしていきたいと思ひます。日常に追われ職員本意とならないよう注意していきたいと思ひます。	センター方式やMDSアセスメントシートを利用して生活歴や暮らし方の希望を把握すると共に、職員は利用者やゆっくり話をすることを心掛け、思いや希望の把握に努めており、情報を共有し利用者本位の支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート並びにセンター方式やMDSなどのアセスメントシートを活用し、利用者様やご家族、ケアマネージャーなどから得た情報をまとめて、スタッフ間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、日常生活状況などの情報をスタッフ間で共有できるようにしています。また、ユニット会議でスタッフを集めてモニタリングを行う事で状態の把握ができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな介護計画書の作成時にはアセスメントやモニタリングで現状と課題を明確にし、利用者様やご家族の意向を踏まえた上で、ユニットでカンファレンスを開き、しっかり現状に即した支援の検討をしています。	利用者、家族の意向を把握して状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。介護計画は介護記録に添えられており、介護記録に実施状況が記されてモニタリング、介護計画作成に活用されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、内容をケース記録に記入し、スタッフ間で情報の共有に努めています。定期的に、また、状態やニーズの変化などがあつた際にもユニット会議により介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭他外出のお手伝いや病院の受診、各種手続きも利用者様・ご家族より依頼があれば対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや近隣の保育園児の来訪など楽しみが持てるように努めています。また、買い物や外食、季節を感じるイベントなどを企画し、出掛ける機会が作れるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携を取り支援しています。また、ご依頼があれば専門医への受診も対応しています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への定期受診は事業所が対応し、遠方への受診は家族が行っています。利用者全員が法人主治医の往診、看護師の資格を有する管理者による健康管理が行われており、酸素濃度計を準備し利用者や家族の安心に繋げています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を有しており、法人の医療機関と連携を取り、受診や緊急時の処置が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関に情報提供を行い、法人の医療機関の相談員とも連携が図られています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには体制上限界があるように感じられますが、その中でどのような支援ができるかを入居者様やご家族と話し合う機会を持ち、理解を得ていきたいと考えています。現在は医療機関の支援を受け対応しています。	入居時に看取りに関して事業所の出来ることを利用者・家族に説明し理解を得ています。医療機関の協力体制などが整備されてない現状ではありますが、事業所が出来る範囲で利用者の状況に合わせてその都度相談し対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で行っている普通救命講習を全職員が定期的に通っています。また、急変や事故発生時の対応もマニュアル等にて周知していますが、今後も訓練機会を設け実践力を付けていきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、災害用の緊急連絡網や自動で連絡を回す緊急通報システムも設置しており、向かいに住んでおられる町内会役員の方にも加わっていただいています。また、非常食の確保にも努めています。	年2回、昼夜想定で地震災害火災避難訓練を実施し、自動通報装置に地域住民の方の登録をさせていただき見守りなどをお願いしています。今年度中に自家発電機を備え照明・キッチン内の電気を賄う事が出来る予定となっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いについては、親しみと混同しやすい事を念頭に置き、スタッフ間で注意し合うようにしています。また、日常の中でも個人の尊厳を大切に捉え、カンファレンス等で協議を重ね、対応を検討しています。	不適切チェックシートにより職員は、自己評価を行い改善に向け検討し振り返ることにより、利用者一人ひとりに合った介護に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せる方ばかりではないので、表情や動作に注意し、自己決定の手助けができるような言葉掛けや場面作りに努めています。まずは今日の洋服選びからできる支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に日課に合わせるのではなく、好きなどで好きな事をして過ごすことを大切にしています。食事の時間についても衛生面で許される範囲で延食のご希望をお受けしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその日の洋服を選んだり、整髪のお手伝いをしています。毎月理容師さんに訪問のお願いをし、美容院や化粧品、洋服の購入にも出掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の状態や体調に合わせ、職員と一緒に調理や配膳、食事、片付けをしていただいています。誕生日にはその方のリクエストにお応えするなど、楽しい食卓を心掛けています。	食事係り職員が利用者の好みを把握し献立を作成しています。食事の準備や後片付けなど職員と一緒にしています。外食の日を設けバイクでの食事や家族との外食は楽しい一時となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や病状に合わせて、主治医と相談しながら栄養バランスに注意して調理しています。また、必要に応じて刻みやトロミ付け、食器の工夫などをするとともに、お好みの飲み物を用意するなどして、摂取量にも注意しながらおすすめています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや見守りをし、必要に応じて仕上げ磨きなどの支援もしています。口腔内のトラブルが見られた時は、歯科受診等迅速に対応するように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の関わりの中でそれぞれの排泄パターンや排泄動作を把握し、自立に向け、声掛けの工夫や低刺激・低コストで済むような最低限の排泄用品の検討をご本人ご家族と相談しながら行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄に努め利用者にあった衛生用品を使用することで不快感を与えないように心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘予防に配慮し、支援しています。ヨーグルトや乳酸菌飲料も用意しています。排便チェックにより便秘の状態を把握し、必要に応じて医師と相談し、処方薬の検討も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、体調に問題が無ければ毎日でも希望に沿った曜日や時間帯に入浴できるよう努めています。全員のご希望通りと言うわけにはいかないのが現状です。今後も努力していきたいと思えます。	お風呂嫌いの方もいますが、体調を考慮しながら最低でも週2回は入浴できるよう支援しています。皮膚の状態に配慮し入浴剤を使用し体や心が安らげるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動の促しや環境の整備により、休息や安眠が確保できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で服薬内容を把握しており、症状の変化が見られるときは主治医と相談しています。また、服薬時には飲み間違いのないように注意し、しっかり飲み込んだかどうか確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意な事やこれまでやってきた事、好きな事などを把握し、役割や楽しみにつなげられるよう心掛けています。気分転換に好きな事をしていただく時間ができるよう考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望にすぐに応えられるわけではないが、可能な限り本人の意思や希望に添えるよう努めています。買い物や展示会などへ職員と出掛けたり、ご家族と外食に行かれたりしている方もいらっしゃいます。	天気の良い日には散歩や職員と一緒に買い物に出かけたり、花壇の手入れや収穫、紅葉狩りや町文化祭に展示品を見に行ったり、祭りパレードの見物に出かけ気分転換になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常費として個々のお財布を金庫にてお預かりしており、買い物の際などには持って出掛けています。手元に置きたいという方には、ご家族と相談し考えられる危険性を説明した上で支援するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話を掛けたり、手紙を出すお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は木目と白を基調とした優しい雰囲気になっており、中庭から自然な風と光が入ります。空調にも注意し、暖房も環境に配慮したのものになっています。また、居間などにその時々飾りや花などを置いて、季節を感じていただけるようにしています。	共用空間は食卓テーブルとソファのエリアに分かれており、寛げる様に成っています。中庭には花壇や畑があり季節を感じられる眺めとなっています。毎日体操をしたり、利用者それぞれの体力に合わせたリハビリの提案があり利用者の身体機能低下の予防に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は別になっており、思い思いにお過ごしいただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ使い慣れた物を持ってきていただくよう説明をして、安心して居心地よくお過ごしいただけるよう配慮しています。ご家族と一緒に撮った写真や曾孫さんが書いた絵などを飾っていらっしゃる方もいます。	居室には、今までの生活習慣が継続できるように使い慣れたベットや筆筒、椅子、家族の写真などが持ち込まれています。毎日、位牌にお供えを欠かさない利用者もいます。新型コロナウイルスの流行で直接面会出来なため窓越しにお互いに顔を見ての会話を叶えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレなどの目印や家具の配置など、利用者様の状態変化に合わせて都度検討し、できるだけ困りごとなく日常生活が営めるよう配慮しています。		